

とくくくくく
アトテとタレオトウ
つりー四重士七夜
他

世界文学全集

39

世界文学全集

39

シェイクスピア

アントニーとクレオパトラ
ヘンリー四世／十二夜／他

阿部知二・中野好夫・三神勲 訳

河出書房

© 1970



カラー版 世界文学全集 第39巻

シェイクスピア アントニーとクレオパトラ他

昭和 45 年 4 月 20 日初版印刷

昭和 45 年 4 月 30 日初版発行

訳者 阿部知二
中野好夫
三神勲

装幀者 亀倉雄策

発行者 中島隆之

印刷者 澤村嘉一

印刷 凸版印刷株式会社

発行所 株式会社 河出書房新社

東京都千代田区神田小川町3の6

電話 東京(292) 3711(大代表)・振替口座 東京 10802

定価 750 円

製 本・加藤製本株式会社
製 函・加藤製函印刷株式会社
本文用紙・三菱製紙株式会社
表 紙・日本クロス工業株式会社

0397—312139—0961

目 次

シェイクスピア

アントニーとクレオパトラ	3
ジュリアス・シーザー	85
ヘンリー四世 第一部	147
十二夜	213
お気に召すまま	267
真夏の夜の夢	325
訳 注	375
年 表	396
解 説	401

巻頭口絵 シェイクスピア記念碑

(ストラットフォード，ホーリー・トリニティー教会)

本文カラーさし絵

J. ギルバート (彩色 野田弘志)

H. J. コリアー

H. シュピース (彩色 野田弘志)

D. マクリーズ

H. トムソン

N. バトン

装 幀 亀倉雄策

アントニーとクレオパトラ

阿部知二訳

登場人物

アントニー

オクティヴィアス・シーザー

レビダス

セクスタス・ポンピーアス

ドミシアス・イノパーバス

ヴェンティディアス

イーロス

スケイラス

ダーシータス

デミトリアス

ファイロー

ミーシーナス

アグリッパ

ドラベラ

プロキュリアス

サイディアス

ギャラス

ミーナス

メネクラティーズ

ヴァーリアス

ローマの三執政

アントニーの一派

シーザーの一派

ポンピーの一派

トーラス シーザーの副官

キャニディアス アントニーの副官

シリ阿斯 ヴェンティディアスの軍の将校

ユーフロニアス アントニーからシーザーへの使節

アレクサス

マーディアン (宦官)

セリユーカーカス

ダイオミディーズ

占師

田舎者

クレオパトラ エジプトの女王

オクティヴィア シーザーの姉、アントニーの妻

チャーミアン

アイラス

他に、将兵、使者、その他の臣下

場面

ローマ帝国内のいくつかのところ

訳者のまえがき

多くの読者には不要かと思われませんが、この劇中の人物名「シーザー」について老婆心までに一言します。これはいうまでもなく、われわれが通常シーザーと呼ぶところのジュリアス・シーザー（紀元前一〇〇—四四）ではなく、その死後に後継者となってシーザーを名乗ったオクティヴィアス（紀元前六三—紀元後一四）です。（この劇には、ジュリアス・シーザーその人のことも出てきます。ただシーザーとだけ呼ばれているところもありますが、訳者は念のためそれにジュリアスをつけておきました。）

そのジュリアス・シーザーを倒したブルータス、キャシアスをさらに打倒して、アントニー（紀元前八三？—三〇）が勢力をふるうにいたったことは、このシェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』の劇にも見るとおりです。そしてこの劇『アントニーとクレオパトラ』は、アントニーがジュリアス・シーザーの跡目をつぐオクティヴィアス（この劇のシーザー）と争って敗北することを扱っています。

アントニー、クレオパトラが死んだのは、紀元前三〇年です。それから三年して、オクティヴィアス・シーザーはローマ第一代の皇帝となりアウグスタスと名乗ることになります。そして「シーザー」という名は「皇帝」を意味するようになります。（後のカイゼル、ツァーの称呼もそこからきます。）この劇では、皇帝となる前後のことですから、人々の彼への呼びかけとしては、將軍、閣下、皇帝などを、前後の感じで使いました。

なお、クレオパトラ（紀元前六九？—三〇）が、アントニーのほか、ジュリアス・シーザー、また、この劇に出てくるポンピーの父を魅したことも知られております。

第一幕

第一場 アレグザンドリア、クレオパトラの宮殿の一室

デミートリアスとファイロー登場。

ファイロー いや、それにしても、われらの將軍の迷いようは、節度をはずれている。あのかがやかな目は

かつては戦場の三軍の上にきらめいて
甲冑にかためた軍神マルスを思わせたのだが、——今はどうか、
なすべき役割と使命とを忘れはてて

ただ一個の浅黒い顔を見つめるのみだ。その武將の心臓は
かつては大戦の激闘のうちに、おのれの胸当ての
留金をも破裂されたのだが、いまはすべての自制をうしない
ひとりのエジプト女の情欲の炎をしずめるための
ふいごや扇になりさがってしまった。

吹奏。アントニー、クレオパトラ、彼女の侍女たち、供のもの、彼女を扇
であおぐ宦官たち、登場。

見られよ。おそろいでこられた

わ。

すこしばかり気をつければ、分かるだろうが、
かつては世界の三本の柱（オクテイヴィアス、レビダ）であったものも、
変わりはてて

いまや、あばずれ女の道化師だ。よく見るがよい。

クレオパトラ それがまことに愛ならば、いかばかりのものか知りたい
のですわ。

アントニー 量りうるくらいのお愛ならば、ちりあくただ。

クレオパトラ わたし、どれほどまで愛していただくか、極限を見きわ
めますわ。

アントニー それならば新しい天と新しい地とを見わたさねばならぬ
でしょう。

侍臣登場。

侍臣 ローマからの知らせでございます、閣下。

アントニー うるさい。かいつまん

で申せ。

クレオパトラ いいえアントニー、お聞きあそばせ。

もしかしてファルヴィア（アントニーの妻である）が怒っていらっしゃるかも知れ
ず、またもしかして

*
髭も生えそろわぬシーザーが、あなたに

きびしい命令を送ってこないとはかぎりません。

「かくかくせよ。あの王国を取れ、あの王国を解放せよ。

あくまで成しとげよ。さもなければ処断す」

アントニー どうしてそのようなこと

が？ 愛するものよ。

クレオパトラ もしかしてかしら？ いいえ、きまっているわ。

あなたは、もうここにとどまれる身ではありませんわ。あなたの解
職状が、

シーザーからきたのですわ。だから聞かねばなりません、アントニー。

ファルヴィアからの召喚状はどこに？ いえ、シーザーからのかしら。それとも二人からの？

使者をお呼びなさいまし。まぎれもなく、わたしがエジプトの女王であるように、

まぎれもなくあなたは赤面しています、アントニー。あなたの身はシーザーに仕えるものです。さもなくば、あなたの類は、

がみがみ屋のファルヴィアの咎めに恥じています。使者を！

アントニー ローマはタイバー川に沈み、広大無辺の帝国の大構造も崩れおちよ！ こここそわが世界だ。

諸王国は土くれだ。糞土まみれのこの大地は、

人も獣もともに養う。人生至高のこととは

こうすることだ。(抱擁する)かく愛し合う配偶者

われら二人が、これをなし得るとき、そしてこの絆に

懲罰をも物とせず、わが身をしばらくとき、

われらが無敵のものであるのを、世界は知るので。

クレオパトラ

どうしてファルヴィアと、愛もないのに結婚されたのかしら。

わたしは、ほかでもないのに、ほかと人に見られるでしょう。

アントニーが、いずれ御本体をあらわされるだろうから。

アントニー

力に動かされてだ。

いざ、愛の女神とその歡樂の時とをこそ愛することとしよう

とげとげしい口論で時をつぶすのはやめよう

われらの生命の瞬間といえども、刻々の新しい喜びなくては

過ぎし得ないのだ。今宵の遊びは何か？

クレオパトラ 使節がまいておりますよ。

アントニー

女王よ、口やかましくは申され

るな！

とはいえ、罵ろうと笑おうと泣こうと、あなたには似つかわしく、

あらゆる激情は、あなたにあっては、その全力をあげて

うるわしくも絶妙なものとならずにはいない！

あなたからのほかの使節をみとめない。そしてただ二人かぎり

今宵はあちこちの街をそぞろ歩きしながら

民どものありさまを眺めよう。いざ、わが女王よ。

昨夜、あなたはそれを望んだのだ。(侍臣たちに)われらに語りかけ

るな。

デミートリアス (アントニーとクレオパトラとは、供をひきいて退場) シーザーは、アントニアスに、かくも軽んじられてい

るのか。

ファイロー はい。時としてアントニーは、わが身を忘れ

アントニー本来のものであるべきはずの

あの偉大な資質が無残にも失われます。

デミートリアス

ローマで彼について語られるところの

はしたない陰口が立証されたのだ。ただ願わくば

明日は改まった行爲を見たい。さようなら！

(二者退場)

第二場 同じ場所

数時間ののち。向こうの室から饗宴のものがきこえ、下仕えのものが食器をさげて出入する。その時、宴席から、イノバースほか三人のローマ人が占師と語りつつあらわれる。しばらくしてクレオパトラの侍女チャミアン、アイラス、宦官マーディアン、およびアレクサス。

チャーミアン アレクサス様。おやさしいアレクサス様。すべてを兼ね

そなえたアレクサス様。まさに至高のアレクサス様。あなた様が女王様にあのようにも推賞されました占師はどこへ行ったのございませうか。はい、わたしは、あなた様がおっしゃいましたような、最高に間男された榮譽の花冠で額の角をかざるといふ、わたしの夫になるのがだれか知りたいのですわ。

アレクサス 占師よ、まいれ！

占師 御意でござりますか。

チャーミアン これがその占師ですの？ あなた何もかも分かる人？

占師 天然自然の限りない神秘の書物のいささかを読むことはできますのじゃ。

アレクサス

手を見せるがよい。

(彼女は手をさしのべる)

イノバーバス (侍者に) 馳走を早くはこべ。酒もたっぷりとな。

クレオパトラの健康を祝すためだ。

(侍者は、果物、酒、その他を卓上にならべる)

チャーミアン すばらしいわ。いい運勢をおさずください。

占師 わしは運勢は生めぬ。探り知るのみです。

チャーミアン では、お願い。一つ探ってください。

占師 いまの身より、おまごとなことにならう。

チャーミアン わたしが肥るといふわけかしら。

アイラス いいえ、年を取って顔を塗らたてるといふことよ。

チャーミアン 皺なんて、そっとするわ！

アレクサス この人の予言の邪魔をせぬよう。謹聴するよう。

チャーミアン しっ！

占師 あんたは、愛されるよりも愛するであらう。

チャーミアン そんなことなら、お酒で肝臓を温めてやる方がましだわ。

アレクサス いや、よく聞くのだよ。

チャーミアン さあ、いよいよ。何かすばらしい運勢をおきかせなさい

よ！ 朝のうちに三人の王様と結婚して、みんなを先きに死なせてしまふのもいいわ。五十歳になって子どもを生むだろう、その子には嬰兒殺しのユダヤ王ヘロデもひざまずくだろうとかいふのもいいわ。わたしがオクティヴィアス・シーザーの妃になって、いまのご主人のクレオパトラ様とお仲間になると見てもらふのもいいわ。

占師 あんたは、いま仕えているご主人の後まきで生きるであらう。

チャーミアン まあ、すばらしい！ わたしは、無花果などより長生きが好き。

占師 あんたは、これからこうとする運勢よりも

よいものを見て生きてこられたのだ。

チャーミアン それじゃ、これからの子どもたちは、父なし子ということになりましようね。お願い、わたしは男の子や女の子をどれだけ

生むんでしょうか。

占師 もし、あなたの情欲のすべてが子宮を持ち

その思いだけ生むとすれば、百万だ。

チャーミアン ばかなことを！ 魔力のある占師なんかじゃないわ。

アレクサス おまえは、自分の寝床のほかは、おまえの秘かな思いを知らぬと思っている。

チャーミアン いやだわ。さあ、アイラスのことを見て。

アレクサス われらすべての運勢を知ることにならうか。

イノバーバス おれの運勢、それからみんなの今夜の運勢は——酔って

寝ることだ。(酒をつぐ)

アイラス (手をさしだす) これは、まちがいないのところが貞潔の相。

チャーミアン ちょうどナイルの出水が饑饉の兆しというようにね。

アイラス およし、好き者さん、あんたには運勢など当てられない。

チャーミアン いいえ、脂ぎった掌が色好みの相でなかったら、何が起

こるか分かったものでないわ。お願い。この人に、ほんのありふれた運勢を話してやってください。

占師 あんたがたの運勢は同じようなものだ。

アイラス でも、なぜ？ なぜ？ くわしく教えてください。

占師 すでに教えたことだ。

アイラス わたしは、この人より一インチくらいは、よくありませんの？

チャーミアン おや、あんたがわたしより、一インチほど運がよいとして……どこで、そうありたいの？

アイラス わたしの夫の鼻が一インチ長く、じゃないわ。

チャーミアン そんな下らぬことは考えたくもない！ とここで、アレクサス様がここにおられるけど——このかたの運は、このかたの運は？ おお、情けぶかいアイシス様(エジプトの主女神)お願いでございます、このかたが、子も産めぬ女をめぐって、おまけにその女が亡くなって、あとからもつと悪い女がきますように！ それから次にもつと悪いのがつづいて、しまいにいちばん悪いのがきて、五十度も間男されたこのかたを、笑いながら墓場へ送りますように！ ありがたいアイシスの女神様、わたしのもつと大切なお願いはお聞きにならなくとも、このお祈りはお聞きくださいませ。ありがたいアイシス様、切なお願いでございます！

アイラス なにとぞ、女神様、この世の人間のお祈りをお聞きください！ と申しますのは、美しい男が淫らな妻をもつを見るのはみじめな思いですけど、醜い男が間男されぬを見るのもものすごく悲しゅうございます。それゆえ、アイシス様、作法どおりに、このかたにふさわしい運勢をあたえてくださいまし！

チャーミアン なにとぞ。

アレクサス とんでもないやつらだ。こいつらは、もしおれが間男される手段が見つかるとなれば、自分が淫売になるくらいは、まったくやりかねぬだろう！

イノバーバス しっ！ アントニーがこられる。

クレオパトラ登場。

チャーミアン

クレオパトラ 殿をお見かけしなかったか。

イノバーバス いえ、女王様。

クレオパトラ あのかたは、こちらでなかったか。

チャーミアン いえ、女王様。

クレオパトラ あのかたは、お遊びになりたかったのに、にわかに

ローマの重大問題がおそってきたのだよ。イノバーバス！

イノバーバス 女王様。何ごとでございますか？

クレオパトラ 殿をお探して、こちらへお連れするよう。(イノバーバス退場)

アレクサス はどこに？

アレクサス ここに控えております。殿がお見えでございます。

アントニー、使者と侍臣らとを従えて登場。

クレオパトラ わたしはお目にかかるまい。わたしに従え。(一同退場)

使者 奥方ファルグイア様は、先きに立つて戦場へおもむかれました。

アントニー 余の弟ルーシアスと戦うために。

使者 はい。

しかし戦いは早く終結し、四囲の情勢は

和議を成立させ、双方の力を合わせてシーザーに当たられました、

戦果はシーザーにさがり、一戦にして、

味方はイタリアから追われることとなりました。

アントニー

で、さらに悪いこと

は？

使者 悪い報せは、それを告げる者の不運となります。

アントニー 愚者や怯者に告げるときにはな。話せ！

過ぎたことは、取り返しはつかぬ。余の態度はこうだ——

余に真実を告げるものは、たとえその話に死が意味されようと、

余は彼がお世辞をいったと同様に聞く。

使者

ラビーナスが――

これはきびしい報せであります――そのバルティア人の軍勢をひき、

ユーフラテス川あたりからアジア地方に勢いをのぼし

その勝ち誇る軍旗は、シリヤからリディアへ

そしてイオニアへと打ちふるわれております。

それでありますのに――

使者

いえ、閣下よ！

アントニー　アントニーは、とお前はいいたいのだらう――

アントニー　ずばりといえ。人々のいうことを割り引きするな。

クレオパトラを、ローマで呼ばれるままにいえ。

ファルヴィアの言葉を使って罵り、余の過失を、

真実と悪意とによって発言し得る、最大の自由をもって弾劾せよ。

おお、われらの活気ある精神も、憎眠をむさばるとき、

そこに醜草は生い茂るが、その場合にわれらの悪を告げられるなら

ば　新たに耕すごとく草は刈られるのだ。しばらく、向こうへゆけ。

使者

御意のままに従います。
(退場)

アントニー

おお、シシオン(ギリシヤの町)からも報せか。語るがよい。

第二の特臣

(扉をひらき呼ばわる)シシオンからの者よ、その者はおるか。

第二の特臣

(いそぎ登場)御命令を待つております。

アントニー

これへ呼べ。

この強いエジプトの魅惑の枷を、余はやぶらねばならぬのだ。

さもなれば、愛におぼれておのれを喪うばかりだ。

第二の使者、書簡をもって登場。

お前は何者か？

第二の使者　東方ファルヴィアは没せられました。

アントニー

いずこで没したか。

第二の使者　シシオンにて。

その長いお思ひのこと、また閣下が知っておかれますべき

さらに重大なことも、ここに記されております。(書簡をさしだす)

アントニー

余をひとりにしておけ。
(使者、侍臣ら、退場)

一個の偉大な魂が世を捨てた！余はこれをこそ望んではいた。

だが人は、きげすんで投げ捨て、そのものを

ふたたびわがものとしたがる。ただいまの快楽は

運命の廻転の下降につれて、やがては

まさにその反対物ともなる。逝った彼女はすばらしかった。

彼女を押しつけたこの手で、ふたたび引き戻したい心である。

余を魅惑するこの女王とは断ち切れなければならぬ。

この遊情放逸からは、思いもおよばぬ不幸

いく万の災禍が生みだされるであらう。

イノバーバスふたたび登場。

イノバーバス　何かいたしますことは？

ああ、イノバーバスか。

アントニー　余は急遽この地を去らねばならぬ。

イノバーバス　万一そうなりますと、われわれの女たちをすべて殺すこ

とになります。女たちには、不実の扱いは命にかかります。われ

われの出発とは、死を意味いたします。

アントニー　余は行かねばならぬ。

イノバーバス　万やむをえぬ事態には、女たちを死なせましよう。彼ら

と大義とを比べてみると、彼らは無にひとしいのです。しかし、

いたずらに彼らを捨ててしまうのは不憫というものです。クレオパ

トラは、このことをちらとでも耳にすれば、ただちに息絶えられま

す。わたくしは彼女がこれよりはるかに些細なことで二十度も思絶えられたのを見ました。思いますのに、死には腕がありまして、彼女に色恋を仕掛けてきますと、彼女はおどろくほど早く思絶えてしまわれます。

アントニー 彼女は、男性の思量を超えて手管をもっている。

イノバールバス おやおや、さようではありません。彼女の情熱は、純なる愛の真の精粹からのみ成りたつております。彼女における風雨を、溜息や涙などと呼ぶことはできません。それはあらゆる曆の書にも告げられぬ大暴風雨です。彼女においては手管などであるはずはありません。もしそうならば、彼女はゼウス大神さながらに風雨を生む力をもつといわねばなりません。

アントニー あの女性に会わねばよかったのだ！

イノバールバス おお、それならば、造化の驚異をごらんにならずじまい、ということですよ。そのような恵みに会われなかったならば、閣下の遠征も無意義でありましたろう。

アントニー ファルヴィアが没したのだ。

イノバールバス 何と申されますか？

アントニー ファルヴィアが没した。

イノバールバス ファルヴィア様が！

アントニー 没した。

イノバールバス しかばね、神々へ感謝の犠牲をささげられるべきです。

もし神の御心が、人間の妻をうばい去られますならば、それは地上の仕立屋のありさまを人に示されるのです。すなわち神は、古い衣服が破れるならば、新しいものの作り手があらわれると慰められるのです。世にファルヴィアのほかに女性なくば、これは閣下にとって大打撃にちがひなく、嘆くべきことでありますが、この悲しみは慰めで報いられます。古びた肌着は新たな下着と成り変わります。一個の玉ねぎ分ほどの涙で、愁嘆は洗ってしまえます。

アントニー 妻が国事で引き起こしたことのため余は国を空けておく

ことができぬ。

イノバールバス だが、閣下が当地で引き起こされました事件は、閣下がなくてはどうすることもできません。とりわけクレオパトラのことは、すべてご潜在にかかっております。

アントニー はしたない口答えはするな。将校団には

余の意図を知らせよ。余はみずから

急遽出発の理由を女王に説明して

別離を諒解せよ。というのは、

ファルヴィアの死と、それにともなう、いっそう緊急の関心事が

余に強く呼びかけるばかりでない。そのうえ

余とローマで謀りごとを共にする同志の多くが手紙をよこし

余の帰国を願っているのだ。セクスタス・ポンピウスは

すでにあえてシーザーに抗して、海上の帝国の

指揮権を手中にした。頼りない人民どもは

真価あるものに対しても、その功績が過ぎ去るまでは

敬愛をそそぐことをせぬのだが、彼らはすでに

大ポンピーの尊厳を、その子の上に投げあたえようとし

その小ポンピーは、名声と力を持ち

それにもまして血氣と精力とにみちて

最高將軍の名乗りをあげており、その力が増進するならば

天下の体制を危うくする。すでに不穩が発生しつつある

しかし、水中で蛇と化するという馬の毛のごとく

生命を得たばかりで、まだ蛇の毒は得ておらぬ

余の下にあるものどもに、余の意図は

ただちに当地から引揚げるにあると伝えよ。

イノバールバス かしこまりました。

第三場 同じ場所

クレオパトラ、チャーミアン、アイラスおよびアレクサス登場。

クレオパトラ あのかたはどこに？

チャーミアン

クレオパトラ どこに、だれと、何をしておられるか、見てくるように。

しかし、わたしが行けといったと告げてはならぬよ。で、もし、あのかたが、

むつかしい顔をしていらしたら、わたしが踊っていると申しあげ、

もし、あのかたが
はしゃいでいらしたら、わたしが急病というのだよ。早く行ってお
帰る。

(アレクサス退場)

チャーミアン 女王様、わたし思いますのは、あのかたを心から愛して
いらっしゃいますならば

そのようななさり方では、あのかたから

同じように愛されるのは困難ではございませぬかしら。

クレオパトラ

いどうすればいいの。

チャーミアン 何ごとも、あのかたの思いどおりにして、お逆らいなさ
いませぬこと。

クレオパトラ それは、ほかの教えというものだよ。あのかたを失う道
だよ。

チャーミアン あまり深く誘惑なさいませぬように。できるかぎりお控
えになって。

恐くなってまいりますと、やがて憎くもなりがちでございます。

アントニー登場。

おや、アントニー様がまいります。

クレオパトラ

で。

わたしは苦しくて、気分が重く

アントニー 申しわけないが、今後のことについて話したいのです。

クレオパトラ ね、チャーミアン、わたしを連れていって。倒れそうだ
から。

こうしてがまんはできない。体のどこにも
もう支える力がないわ。

アントニー

だが、愛する女王よ――

クレオパトラ お願いですから、そっとしておいて。

アントニー

クレオパトラ そのお目で、何か吉報がおりだったと分かりますわ。

あら、どこかの奥方が、お帰りなさい、とおっしゃったのかしら。

それなら、あなたがこちらへいらっしゃるのを、許されなければよ
かったものを！

彼女に、あなたをここに引き止めているのは、わたしだといわせ
ませんよ。

わたしはあなたに、何の力もございません。あなたは彼女のもの。
アントニー 神々はもつともよく知っておられる――

クレオパトラ

ああ、これほどにもし

たたかに

裏切られた女王はございません！ しかも、初めから
裏切りが仕組まれていると知っていましたのに。

アントニー

クレオパトラ――

クレオパトラ どうして、あなたが真実にわたしのものと思えるでし
ょうか。

あなたは、神々の座をゆるがすほど、誓いの声をおあげにはなつたけれど

あなたはファルヴィアに不貞だったかたです。口先の誓いなどは声を張りあげると同時に破れてゆくものなのに

それにたぶらかされるとは、氣違いだわ、乱心だわ!

アントニー

やさしくうるわしい女

王よ――

クレオパトラ いいえ、どうかご出発の言いわけなどなさらないで

さらばとの一言で、お立ちください。ここにいたいと願われた

あのころは言葉というものに、neauちもありました。お立ちなどとは思いもよらず、

永遠が、わたしたちの唇にも目にも宿っていまして、

眉のかげには至福がありました。わたしたちの体のどの片隅にも

天上の芳醇がありました。いまも、そうなのです。

さもなれば、世界の最高の勇将たるあなたは

最大の嘘つきに変化なさったのでしょうか。

アントニー

どうしたというのか、妃

よ!

クレオパトラ

あなたと同じ背丈がほしい。そうすれば、あなたをにら

んで、

エジプト女に勇氣があるのだと知らせてあげるのですけど。

アントニー

お聞きなさい、女王。

緊迫の極に達した情勢が、余のしばしの活動を

絶対に要求しているのです。しかし余の心のすべては

あなたのものとして、とどまるのです。わがイタリアでは

内戦の剣戟がきらめきわたっている。セクスタス・ポンピーアスは

ローマの港をめがけて、迫りちかづきつつある。

国内において両勢力がたがいによらず

微妙な動きをする小党派もあらわれた。憎まれたものも力を得れば

微妙な動きをする小党派もあらわれた。憎まれたものも力を得れば

新たに愛されるものとなる。弾劾されたポンピーは、

父の名声に大きく助けられつつ、すみやかに

現体制下では不遇に悩んだものたちの心に

食い入ってゆき、その数は国家をおびやかすにいたった。

平穩の状態は、無為に耐えられぬ心を生みやすく

それは、いかなる無謀な変乱によつても、

血の粛清をしようとする。だが、余の私ごとをいうならば、

余が行つても、あなたは絶対に安心である、というの

はファルヴィアの死ということです。

クレオパトラ 年をとりましたが、愚かきはおつていませんけれど

子どもではございません。ファルヴィアの死が信じられますか?

アントニー わが女王よ、彼女は亡くなっています。

これです。あなたのお暇なときに読んでください

彼女がどんな騒ぎを起こしたかを。そして最後の最良の報せを。

彼女が、いつ、どこで亡くなったかを。

クレオパトラ

世にも不貞な夫!

あなたの、嘆きの涙でみたすべき聖なる盞は、

どこにございますの? もう、分かりました。分かりました。

ファルヴィアの死を見れば、わたしの死がどう扱われるだろうか

が。

アントニー いさかいはやめよう。知ってもらいたいのは

余のいさかいの目的のことです。それが生かされるか否かも

あなたの意見によることになる。ナイルの川の泥土から

生命を造りだす燃える日輪にかけていうが

余はこの地から、あなたの兵士、下僕としてゆき

和戦ともに、あなたの心にしがたう。

クレオパトラ

チャーミアン、きて、この帯紐

を切っておくれ。

いいえ、このままでいい――わたし、急に気分が悪くなったり、よ

くなったり――

ちょうどアントニーの愛のように。

アントニー

たぐいなき女王よ。しずまりなき

い。

この愛を真に信じて疑わないでほしいのだ。

真実無比なものとして、試練に耐える愛だ。

クレオパトラ

ファルヴィアのこと、

それを教えていますわ。

どうぞ、横へふりむいて、彼女のためにお泣きください。

それからわたしに別れを告げながら、涙はエジプト女王へのもの

と、

そうおっしゃるのですわ。さあ、すばらしい一場の

お芝居を演じなさいませ。どのように見ても

真実無比と受取られるように。

アントニー

血が煮えかえる。やめてほしい。

クレオパトラ もっとみごとな演技もおできでしょうけれど、これでも

なかなか。

アントニー さあ、わが剣にかけて――

クレオパトラ

それから楯にも。ますますす

ばらしいわ。

でも、もっとみごとも、おできになるでしょうね。チャーミア

ン、ごらん

このヘルクレスさながらのローマの英雄こそは

憤怒のお身ぶりがよくお似合ふこと。

アントニー（一礼する）女王よ。余は出発するであらう。

クレオパトラ

礼儀正しい殿様。一言

申しあげます。

あなたとわたしとは別れねばなりません。いえ、それをいうのであ

あなたとわたしとは愛していました。あら、それをいうのでもあり

ません。

でも、あなたはよくご存じでしょうね。わたしが何をいいたいの

か。

そう、わたしの健忘症は、アントニー様そっくりだわ。

ああ、何もかも、忘却の底に沈みました。

アントニー

もしあなたが、王者がその

臣下を屈服させるごとくに

いたずらに心を抑えつけないとするならば

あなたを、いたずらに心のかたまりと見るであろう。

クレオパトラ

クレオパトラがこうし

ているように、いたずらに心を

心にひしと抱きしめているのは、難行苦行ですわ。

でも、お許しください。わたしの美しさが

あなたのお目をよろこばせぬ以上は、美しさも仇ですわ。

あなたは光栄の道にしたがって、ここをお去りになります。

憫れむ人もないわたしのいたずらに心など、相手にせず

あらゆる神々に守られながら！ あなたの剣には

勝利の月桂樹がかがやきます！ お足もとには

坦々たる成功の道がひらけてゆきます！

アントニー ゆくことにしよう。さあ。

われらの別離とは、共に在ることであり、相去ることである。

あなたはここに残りながら、しかも余とともにゆき

余はここから去りゆくが、あなたとともに在るのだ。

（退場）